

主任委員の詞

南科管理局より2003年年報の序文を依頼され、一瞬、南科職員たちが苦勞して創業してきた足跡と努力してきた姿が、荒れた無人のさとうきび畑と、現在の卓然とした半導体、オプトエレクトロニクス及びバイオテクノロジー三大産業が集まったハイテク園区の間にはっきりと浮かび上がる。私は南科職員たちがこつこつと重ねてきた努力と心配りをこの目で見てきた。特に洪水防止、高鉄の振動減少及び文化遺跡の処理では、同僚たちがあきらめずに努力した結果、今日、こうして南科運営の成長があるといえる。

近年、国際的不景気にもかかわらず、南科は2000年から2003年の間に30回以上の企業誘致説明会及び展覧会を行い、企業投資の成績は目を奪うものだ。その他、優良な環境を強化する上で、更に積極的に作業を進め、台南園区一期開発を予定より速く進め、台南園区二期拡大及び路竹園区建設を加速してきた。同時に、多様な研究開発環境を建設する中、競争力を強化し、多くの措施を推進、工安環境保護作業を重視し、水電力施設と交通路網の完備、生活機能の強化等、目に見えた成果を上げてきた。

さらに特記すべきことは、南科が文化と科学技術を兼ね備えた園区であることだ。これは全世界の科学園区の発展史上、実に数少ない。先民がこの地に残した足跡が、現在10数ヶ所の文化遺産となって出土している。管理局は保護活動を行う他、積極的に関連機関と研議して、国家クラスの博物館を設置し、出土文物を現地保存している。南科はハイテクアイランドの核であるだけでなく、文化伝承機能を兼ね備えた、レジャーと知性開拓の旅を提供できる園区となっている。

現在、南科が各種建設、生活機能推進を積極的に続けていく中、地方関連産業の発展、地方経済の繁栄をも推進し、地方と園区が共に発展していくことが望まれている。

七年強の間、新竹科学園区の貴重な経験を元に、南科管理局は南部地区の特性及び科学技術の発展傾向を研究し、斬新な園区を開拓してきた。これからも、戴局長の優れた指導のもと、南科職員が全力を尽くして才能を発揮し、南科を美しく、アイデアに満ちた、科学園区の新しいモデルとして、文化生態とビジネス活動を結合した、永続的に発展を続ける多元的ハイテク新都会を建設して欲しい。

行政院国家科学委员会主任委員

魏 哲 和